

令和8年3月6日  
世田谷区立上北沢小学校  
校長 三浦 健仁様

学校関係者評価委員会  
委員長 篠原 陽子  
周防 泰臣 松田 麻美  
松田 洋子 三浦 美里

## 令和7年度 学校関係者評価委員会の報告

上北沢小学校学校関係者評価委員会では、5・6年生児童、全校保護者地域関係者によるアンケート結果及び、教職員自己評価をもとに、本年度も評価をまとめましたのでご報告いたします。尚、令和8年度からは「学校運営協議会」が発足され、その一部に「学校評価」が組み込まれることになりました。今後はまた違った形で「学校運営が安全かつ適切に行われているか」のご報告はなされるかと思えます。

「学校関係者評価委員会」としてのご報告はこれもちまして最後となります。

私ども委員が15年以上学校運営にかかわってきた中で、働き方改革にはじまり、コロナウイルス蔓延、有事（コロナ禍）での教育、タブレットを使っただけの授業、授業内容の充実を図るためのスリム化や合理化を行う必要があるなど教育現場はものすごいスピードで変わってきたように見受けられます。さらに言えば子どもを取り巻く環境、保護者の考え方、生活スタイルの多様性、教員が子ども一人一人に関われる実質的な時間の不足、教員自身の向き合い方など…ネガティブな事を上げたらきりがありません。それでもそのような中、学校は毎年「→目標を掲げ→分析し→評価し→改善する→」を繰り返してきました。子ども一人の問題を担任が取り組む、学年で取り組む、学校全体で取り組む体制ができていると思えます。そんななか生まれたのがルールであり、「上小学びの十か条」です。勉学もちろん大切ですが、人生で一番芯となるところをはぐくむ大事な6年間、集団でしか学べない学びをするのが学校の役目なのはずっと変わらないと思えます。

タブレット一つとっても、使えば時短で便利ですが、授業以外にも使ってしまう子どもは確かに出てきます。またタブレットを中心にしてきたところ、すぐに答えが出てしまう便利さと引き換えに考えることをやめてしまう結果を招きかねないでしょう。そこで改めて手書きや紙の資料を使うことの重要性を再認識できます。どちらの良さも使うという気づきになるのです。タブレットのみならず、何を削って何を必要とするかを常に念頭に置いていただければと思います。

先にも触れましたが、来年度は「学校運営協議会」が発足され、地域運営学校へ変貌していくようです。「地域」には保護者の方々も入っていますし、文字通りの地域の方々も一緒に子どもを育てましょう。益々子どもが安全で快適な教育を受けられるように、その中心が上北沢小学校であるように願ってやみません。

以上